

空間体験想像装置 - 「奥への意識」のある空間の創造-

Spatial Experience Imagination Device -Creating Spaces with a "Sense of Depth"

曾我部研究室 小野 美咲

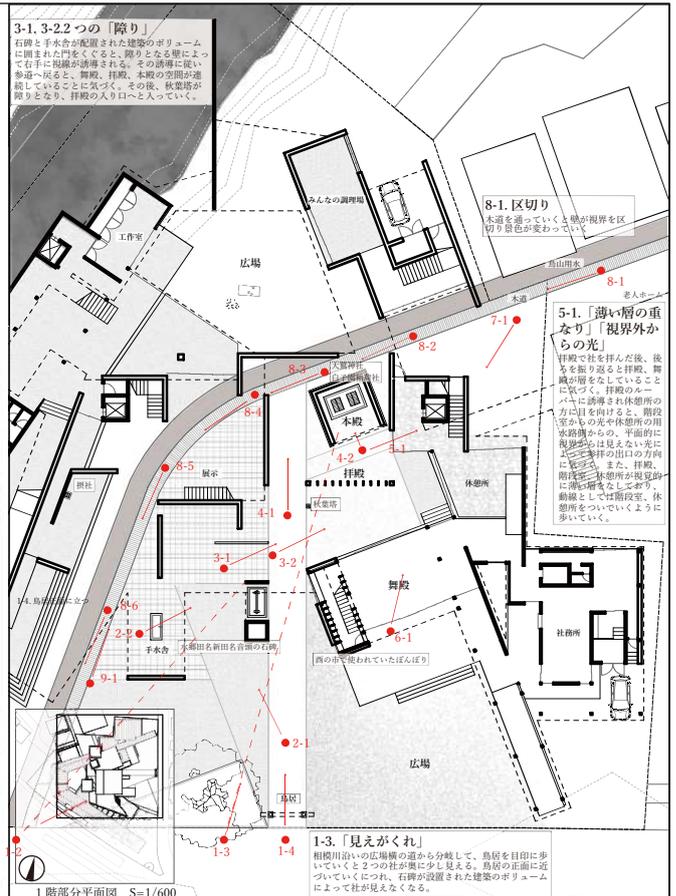
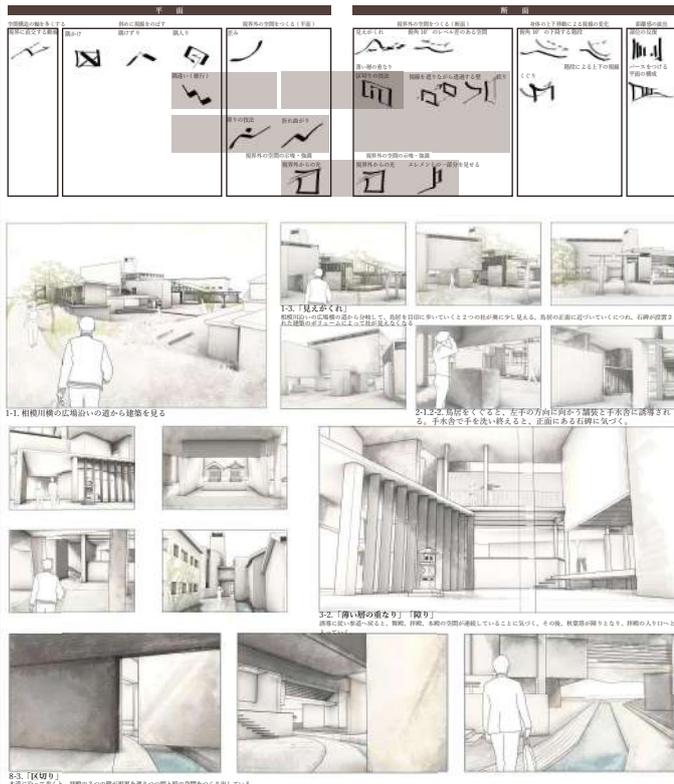
研究概要： 槇文彦による空間論「見えがくれする都市」やその他空間論を参照し、「奥への意識」があると感じたシーンの収集・分析を行なった。その後、それらの事例から「奥への意識」を引きよせる要素を整理しながら「奥への意識」のある空間構成を検討し、最終的には相模原市水郷田名を舞台に、神社と地域コミュニティ施設の複合建築の提案としてまとめた。

研究目的： 移動していった後に得られる空間体験を想像するような感覚を、奥へ積極的に意識を向かわせることとして「奥への意識」とした上で、「奥への意識」が得られる場をシーケンシャルに集積しながら空間構成をまとめることを目的とする。

研究成果：

事例調査から、「奥への意識」があると感じたシーンをもとに、それを引き起こさせる要素を平面、断面に分けて整理した。以下はその要素をダイアグラム化し、表にまとめたものである。

この表をもとに設計をまとめている。



苦労した点や感想など： 事例を分析して設計につなげること、特に「奥への意識」の要素を事例から自分なりにまとめることに苦労しました。また、そこからその要素をどのプログラムで、どういった設計にしていくのか、要素をきちんと取り込んでいるかを模型などで検証することについても苦労しました。